

合併で疑惑をもみ消すが本当の「ご意向」か

(三条新聞合流点 平成二十九年六月二四日 土曜日)

私の友人は弥彦村の大谷前村長と同級生です。その方が言うには以前、大谷氏は「国が面倒みてくれっから、地方は赤字になっても心配いらねんだっや」と同級会で述べていたそう。

先日の議会では財政再建を訴える村の提案に対し、経営改善調査は必要ないと否決。板倉さんという議員は対案もなく、ただ反対するのは議員諸氏に「事情」があるのかと問いただしたそうだがそこにはまさしく赤字になってもよいという大谷氏の「ご意向」があり、それに従っているのではないか。

さらに話を聞けば最近国の文化財に指定された建物を、汚く・古いから壊せとの「ご意向」もあつたそう。

村外の私でさえそのような情報が入ってくるのであるから、村民の皆様にはもっと多くの、身近な「ご意向・事情」が入っているのではないか。加計学園問題のように隠れた情報をもっと村民皆さんで集め、それを広めてはいかがでしょうか。そして勇気を持って村の事情を通報告発するような体制は作れないのでしょうか。

燕市や隣の三条市では弥彦村のようなことをしていたら徹底的にたたかれ、市民の話題・問題、さらには住民運動に発展します。田中議員は納得できる資料がないと言われるが、「損政痛：」様の言われた行政事務調査委託書には外部のチェックが必要と言われているようですが、それで納得

出来ないのでしょうか。さらに私が心配、不安視しているのはこのまま弥彦村が赤字になり、財政再建できなかったとき発生する「合併」問題です。赤字を抱えた村との合併は反対です。

もしかしたら大谷氏は最終的には燕市や新潟市と合併し、自身が行なってきた疑惑をもみ消すのが目的だったのか。そのための赤字覚悟の行政だったのか。それが本当の「ご意向」だったのかな(燕市のじゃじゃ馬)